浜松南高新聞

様々な思いを胸に御卒業おめでとうございます

平成八年三月一日、第三十一回生が御卒業する。バルセロナオリンピックの翌年入学し、アトランタを前に卒業していく。普通科十クラスになって四回めの卒業生である先輩たちの言葉を聞いてみよう。

発行所
県立浜松南高校新聞部
静岡県浜松市米津町
TEL(053)441－1486㈹
FAX(053)442－0148

印刷
富士印刷株式会社

成長する自分でありたい

永井　達也（39）

執行部は、非難されることはまず無い組織です。何が喜ばれるか、分かっていても実行できず、何が嫌われるか、知っていてもやらざるを得ない。その状況を打破するどころか、理解すら得られない自分の無力さに、何度も自己嫌悪に陥りました。

勿論楽しかった事もありました。でもその思い出こそが、今の自分を苦しめるのです。かつての友は今なお友と言えるでしょうか。自分はあれから成長しているでしょうか。思い出の良否は、今が決めるのものです。

たくさんのよい友達が

富永真理（33）

私は、三年間の南高生活の中で、たくさんの良い友達を作れたことをとてもうれしく思っています。今振り返ってみて、南高の生徒は、全体的にコツコツやるがんばり屋さんが多かったように思えます。また、やり始めたことは最後までやり遂げるといういしっかりとした意志を持った人がたくさんいました。他にもすばらしい面を持った友達と出会うことができました。ただ一つ欠点をあげれば、積極性に欠けていることだと思うので、今後改善されていくといいと思っています。

全てが良い思い出

鈴木　雅子（38）

私の水泳部での思い出は試合や合宿など数多くあります が、特に「これだ！」というものはありません。合宿の時、山本先生がとてつもなく多いメニューを作り、みんなで文句を言いながら練習したことや夜に話しこんで朝がつらかったこと。試合の時、差し入れが多すぎて食べきれなかったことや、友達や先輩の応援のおかげで安心してレースに望めたこと。これら全てが良い思い出です。

応援団は「人生の縮図」

合田　宗樹（37）

一年生の頃は、羞恥心を捨て切れず本当に辛かった。練習の合間に、団員の人達と一緒に遊んで楽しい思いもした。高校野球大会、場所は浜岡球場で、一回の南高の攻撃中、二番バッターの時点で夢中のあまり太鼓の膜を破ってしまったこともあった。応援での三年間をまとめると、「苦楽が同居していた」となろうか。ということは、応援団は、「人生の縮図」と言えなくもない。

定期演奏会が開けた!!

田内直樹（30）

昨年度の五月に創部六年目にして部員一同の念願であった演奏会を行なうことができました。開催にあたっては何労の連続でした。でも無事終わった時の満足感と喜びを今でもよく覚えています。第二回の開催は第一回の時より大変でしたが、お客様や先輩方よりおほめの言葉を頂いて大変感激しました。楽しかったこと、辛かったことなど色々ありましたが、この二年間で南高吹奏楽部全体が大きく成長したと思います。今後の活躍が期待できそうです。

風を感じていたいから

椅田　拓志（38）

走って楽しいかって？楽しくなんかないよ。何故、走るのかって？俺達が走る理由はただ二つ、風を感じていたいからなんだ。

風にもいろいろあるけど、走ってる時の風は格別さ。俺達は黄金の風って呼んでる。俺達はこの風にのっていたい。ただそれだけさ。

本当にサッカーをしたい人が集まって

鈴木　俊吾（35）

総勢約百名の浜南サッカー部で二年間サッカーをしました。先輩・後輩もなく本当にサッカーをしたい人だけが集まり一人一人が伸び伸びとプレーしています。そんなサッカー部で今でも印象に残っていることは、一年時の新人戦と二年時の選手権です。いずれも先輩達と一緒に満足いく結果が出せました。やはりサッカーというスポーツはフィールド内の選手十一人だけでなく、試合に出ていない部員、監督、マネージャーの気持ちが一つになってはじめて勝利という二文字を手に入れることができるとあらためて実感しました。

人間的に成長させてくれた友達

鈴木　裕梨（35）

私の高校生活は、たいへん友人に恵まれていたものだったと思います。この三年間には、楽しいことばかりでなく、つらく苦しいこともありましたが、どんな時でも友達が側にいてくれたから、なんとか乗り切ることができたような気がします。例えば、模試の結果がとても悪くて沈んでいた時、「たった一回のテストで人生が決まるわけじゃないよ」といって励ましてくれたり、憂さ晴らしに付き合ってくれたりしました。なによりも、人間的に成長させてくれたのは友達です。

予算編成の仕事を通じて

河合　俊輔（38）

三年間はとても速くすぎてしまいました。その中で特に印象に残っているのは生徒会での経験です。自分でやろうと決めたことでもいやなことや困難にであうと逃げ出したくなってしまいます。予算編成では各部のおり合いがつかず大変でした。しかしそれをやりぬくことで初めて充実感や喜びが得られるのだと思います。これはどんなことにも共通することだと思います。生徒会をとおしてこのような経験ができたことで大変有意義な高校生活をおくることができました。

南高で自分は随分変わった

高田　尚子（36）

南高に三年間通って、自分は随分変わったなと思う。勉強も前よりするようになったし性格も変わったみたいだ。もし他の学校に行っていたらまた違う人間になっていただろうから、どんなになっていたか少し気になるけど、とりあえず今の自分はそんなに嫌いではないので南高に来てよかったんだと思う。

忙しくやりがいのある部活動

平田めぐみ（35）

高校生活の思い出と言えば、部活動のことです。というのは、初めて文化部に入部したからです。入部した理由は、週に一回でしかも楽で暇であると思ったからです。けれども、これは単なる私の固定観念に過ぎませんでした。新聞部に入部して二年、初めて忙しく、とてもやりがいのある部活動を経験させてもらいました。私の高校生活の最高の思い出です。

たまには、文化部（率直に言えば新聞部）に入部するのもよいものです。

こんな学年でした

三十一回生の在学中、南高にも変化がありました。この学年の特徴を思い起こしてみました。以下は新聞部員の思いつくままに。

○鳥居國雄校長に入学を許され、尾上辰夫校長に卒業証書を授与される。
○三年間対面販売の購買で、おばさんたちからパンを買った初めての学年。
○ローズ先生に学んだ最後の学年。そして、マンフレド先生、マイケル先生と変化の妙を楽しんだ（？）
○二年生のとき、セブン・イレブンが学校の近くにでき、ちょっと都会気分になった。
○一年間、木曜七時限をがんばり抜いた学年。
○三年間、男女ともに、マラソン大会一位になれなかったらしい……。
○私服で山の村に行った最後の学年。

三年生のみなさん、三年間お疲れさまでした。個々の進路に向かって胸をふくらませている人や合格発表を前に、気が気ではない人も、この文を読んでどんな感想を持ったでしょうか。この二年間は、良い事ばかりだった人も悪いことばかりだった人も、一生忘れることのできない思い出になると思います。

この思い出を胸に、これからの人生を力強く歩いて行って下さい。

卒業に際して

三年学年主任　河合省二先生

長い長い人生において、高校時代はどのような位置づけがなされるのでしょうか。

入学時の初々しい姿は今でも鮮やかに甦ってきます。そして今、立派な青年の姿で巣立っていこうとしています。この二年間の身体的・精神的成長こそ、生涯のベースとなるものであり、生涯の財産であろうと思います。言わば「宝物さがし」の三年間だったと言えましょうか。部活動、ボランティア、生徒会、勉強、進路等、得たものは個人個人様々でしょうが、それぞれが、輝く宝物を得てくれたものと思います。人生は一回しかありません。若い時はそれに気付きません。折り返し点を通過してやっと気付くものです。一回しかない人生だからこそ、内容のあるものにする努力は当然必要でしょう。若者達よ、おもいっきり暴れて下さい。持てるエネルギーを百パーセント活用して下さい。社会に出たら、同じ社会人として語り明かしたいですね。祝卒業！

部活動報告

▼男子ハンドボール
新人大会県大会
一回戦　10－5長泉
三回戦　16－11富士
準決勝　14－18清水商
▼女子ハンドボール
新人大会県大会
二回線　5－18沼津西
▼女子バスケット
新人大会西部予選
二回戦　97－53江之島
三回戦　73－34常葉菊川
四回戦　69－50湖南
五回戦　68－52浜松商
新人大会県大会
一回戦　76－44静岡商
二回戦　80－53東海大一
準々決勝　52－75静岡市立
▼男子バレー
新人大会西部予選
一回戦　2－0湖西
二回戦　2－1磐田東
三回戦　2－1浜松商
四回戦　0－2袋井商
三位決定戦　1－2聖隷
新人大会県大会
一回戦　2－0沼津学園
二回戦　0－2静岡西
▼サッカー
新人大会西部予選
予選リーグ　3－0磐田南
12－0引佐
2－0掛川工
1－2湖東
決勝トーナメント
一回戦　2－1浜松北
二回戦　2－1聖隷
三回戦　4－0常葉菊川
決勝　1－0浜松西
新人大会県大会
一回戦　1－0大井川
二回戦　0－2静岡学園
▼卓球
新人大会県大会
個人戦一回戦
片山0－2阿部（掛西）
奥村2－1鷲坂（島学）
個人戦二回戦
奥村1－2小塩（御南）
▼陸上
湖西市駅伝大会
高校の部　一位
総合の部　二位
県西部ロードレース
男子　岩城　四位
半田　九位
藤田　十一位
佐藤　十二位
女子　杉浦　十二位
県駅伝大会
高校の部　九位
西部駅伝大会
Aチーム　五位
Bチーム　十八位
▼男子テニス
西部冬期学校対抗
一回戦　5－0小笠
二回戦　3－0袋井商
三回戦　0－4浜松北
▼女子テニス
西部冬期学校対抗
一回戦　5－0浜松東
二回戦　3－2磐田南
準々決勝　0－3江之島
▼男子バスケット
新人大会西部予選
一回戦　79－56周智
二回戦　50－82浜松商
▼女子バレー
新人大会西部予選
二回戦　2－0浜松工
三回戦　0－2湖東
敗者戦　0－2湖東

書作展で、河合由紀子さんが（19）が「秘すれば花」という字で県高書研会長賞を受賞。山本桂子さん（10）は特別奨励賞を受賞した。

〈浜松に積雪1センチ〉大渋滞のパニック
南高生にも事故多発

一月三十一日の夜久しぶり浜松に大雪が降り、翌朝はどの家の屋根も白くなった。道路にも雪が残っていたせいか事故が多発し大渋滞になっていた。そして、自転車で学校に行く途中に雪によって転んだため、かなり痛い思いをした。またブレーキがきかないのであやうく自動車とぶつかりそうになった。自動車の運転手は自転車がいきなり飛び出したことに腹を立てていたようだが、自分も自転車がどうしても止まらない時に、スピードを出してきた自動車に腹が立った。そのためとても嫌な気分になったという話をしていたり、やたら情けない所にアザを作っている人もいたので自分はましな方だと思い安心した。

一日の始まりだった。学校に着くと、自分のクラスには以外と遅刻者が少なかったため南高生の逆境に対する強さが感じられた。また自転車で転んだ事を恥ずかしくて人には言えないと思ったが、みんなが自分も転んだという話をしていたり、やたら情けない所にアザを作っている人もいたので自分はましな方だと思い安心した。

被害状況リポート

その日の南高生の被害状況をリポートしたい。保健室は女子生徒を中心に大混乱していたそうである。その内訳はすりきず　25人
打撲　6人
ねんざ　1人
計32人
うち二人は重傷で病院で治療をうけ、一人は足にひびがはいり、もう一人は脱臼であった。けがの特徴はスカートをはいた女子が、ひざをすりむくけがが多かったそうだ。

保健室の大隅先生によれば「雪道に慣れていないので自転車で登校する生徒は、スピードを出さないでゆっくり来るようにし、また大通りは危険なので通らないようにしてほしい。またバスを利用したりして自分で注意してほしい。」とのこと。

「出動！学校救助隊」
保健便り好評

保健便りが、今年の一月号からさらにパワーアップした。今までの「保健便り」というネーミングが、「学校救助隊」に変わったのをお気付きだろうか。その第一回、身長についてのアンケートはおもしろかったという声が多かった。男女とも自分の身長に不満だが、つき合う相手はそんなに高い身長を望んでいない点など興味深かった。

このネーミングは、保健便りにもっとインパクトをつけようと考え、生徒からアンケートで募集した結果決まったそうだ。

また保健委員会では、毎月アンケートをとり、それをもとにして委員会の広報班の人達が保健便りを作っている。「この内容については、なかなか好評なのでとてもうれしいです。アンケートを取ってみて、私達の身近な問題、例えば抜け毛やダイエットなどのことについて、みなさんが日頃どう思っているのかを知ることができました。男子と女子の考え方の違いがおもしろいと思います。裏面には、その時期にあった内容を載せていくので、忘れずに読んで下さい。

保健便りを作るのはとても大変ですが、みなさんが少しでも興味を持って読んでくれたらうれしいです。反省点として、発行するのがいつも遅れてしまうので、これからはなるべく月始めに出したいと思います。また、これからも新しい企画をいろいろと考えていきたいです。

村松佳代（21）保健委員長

トピックス

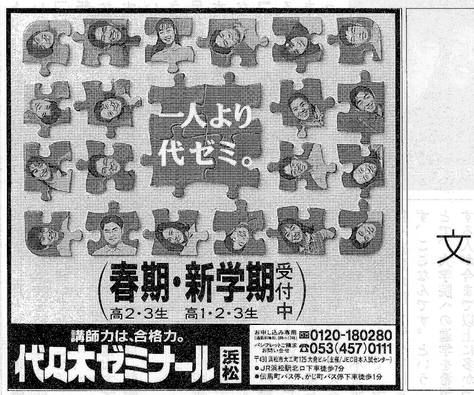
オリビアさん、来校
15HRで一緒に学習

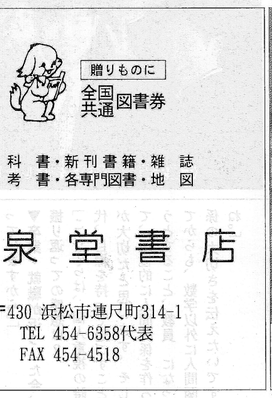
一月十一日15HRにオーストラリアからオリビア＝レナンさんが来た。年齢は17歳、趣味は写真を撮ること、木馬、スキーなど。紹介者の鈴木智香子さんは次のように語ってくれた。

「初めてクラスのみんな担任も含めて同じ教室内に外人がいることにとまどっていたみたいだった。自分からやって来る人がいそうもなかったので友達を連れてきて紹介したりして話をすすめた。日本語も少しは通じるので結構会話が成り立った。男子は気にはかかっているけれど誰も話しかけようとはしなくて、時々チラチラこちらを見るくらいだった。授業中は英語の時間教科書を見せなくてもテープを聞くだけで理解してるらしかった。他の授業といっても数学と美術だけで無理して受けさせなかったので自分の日記を書いていた。半日という短い時間だったけど、女子は私がいなくてもオリビアと話していたので良かった。もう少し時間があれば校舎を案内したり男子と話すチャンスもあったかもしれない。」

中村先生ご長男誕生

今年の1月12日、中村豊先生に男の子がお生まれになった。名前は旦（あきら）君。体重は2750グラム。旦君という名前は、太陽が昇るような人生を歩んでほしいという願いでつけられたそうだ。先生のお話によると、まだサルのようだとのこと。将来は大人物になってほしいと願っているそうだ。





コンビニと高校生の利用状況

“便利さ”の裏側の問題点

（セブン＝イレブン法枝店で調査）

南高の北側に、二年前の十月にオープンしたセブン＝イレブン。弁当・文房具・生活用品にと品揃えが豊富で、終日、多くの南校生が利用している。今回は、南校生に人気のある弁当を中心に、問題点などを取材した。

店のモットーは、『明るくきれいな店』。開店から一年余りたっているが、店の中は、清潔さが保たれ、客である我々にも、良いイメージを与えてくれる。

人気のある商品を表にした。まず弁当について言えば、量も価格も手軽な商品が特に人気をあびているようだ。法枝店に、南校生が登校する時には、多くの種類が並べられている。ここにあげた弁当以外にも多くの弁当が売られているようだ。弁当以外では、カップラーメンがよく売れている。菓子パンについては、近日中に『できたてパン』が新しくなるそうだ。期待してほしい。飲み物については、コーヒー牛乳や、アップルジュースが人気があると言う。表には掲載できなかったが、雑誌を買う生徒も多いとか。長時間に渡る立ち読みには店員も頭をかかえている。

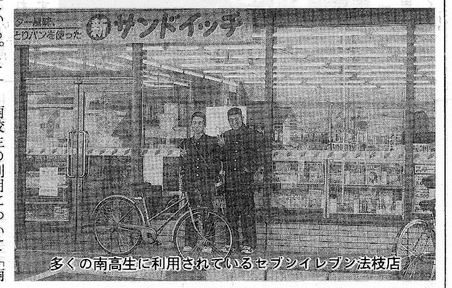
一番、混んでいる時間帯は昼や十一時半から十二時、夕方は六時から八時くらい。南校生も放課後等に寄っているようだ。

〈人気のある商品〉

○弁　当
第一位　牛カルビ（480円）
第二位　チャーハン弁当（480円）
第三位　焼そば、グラタン、ドリア　等

○弁当以外
・カップラーメン
・菓子パン
・駄菓子（10円～50円）

○飲み物
・500mlパックジュース
・赤リンゴ青リンゴクリア



多くの南高生に利用されているセブンイレブン法枝店

南校生の利用について「南校生があっての店なので、ニーズにあう商品を揃えて、南校生を大切にしていきたい」とセブンイレブンの笠井さんは話してくださった。

セブン＝イレブンの開店により、我々の学校生活は、より快適にしてくれたが、しかし、その反面でいろいろな問題が起こっているようだ。

店の駐車場においてあった南校生の自転車が倒れて、車に当たり、車の持ち主ともめたことがあったそうだ。また店内では、おでんのスープを山盛りにしていくために、床に、ボタボタ落していくということもよくあるとか。

これ以外にも、商品の取り扱い方や店の利用の仕方にも問題がありそうだ。

セブン＝イレブン法枝店は県道沿いにあることもあって、一般の客も多く入る。南校生の公共の場の使い方を、今一度見直す必要がありそうだ。

笠井さん

最後に、笠井さんは、ニーズに対応するために、部活の練習日、試合、合宿などのスケジュールを教えてほしい。予約も承っているので、是非、利用してほしいと語ってくれました。

人を語る

人生を大きく変えた剣道
厳しさの中で学んだ事

太田佳純先生

―剣道を初めたきっかけと時期

中学一年生からです。小学生の頃は水泳と陸上をやっていたわけですが（水泳が中心）、中学生になった時何か新しい部活をやってみたくなり、どうせやるなら一番強い部活でと可美中学校剣道部に入りました。

―剣道の思い出は

中学生の頃は、とにかく毎日練習があって、休みはお盆休み二日ぐらいと正月二日ぐらいの計四日。一日の練習もかなりハードでした。先輩と後輩の違いはっきりしていて、よく先輩の前で正座して「説教」と称される話を聞かされました。しかし、部活をいやだとかやめようと思ったことは一度もなかったですね。理由は剣道がおもしろかったし、気の合った連中ばかりだったから。ただ冬の一月、二月の日曜の練習はきつかったなと思います。朝六時から練習なので一年生は五時半ぐらいに行っていないといけない。だから五時に起きて（自分で起きる。親は一切起こしてくれなかった）、自分で飲ちゃんのカップヌードルなんかを食べて寒くてまだ暗い道を走って行く。そうするとだんだん友達と行き会って学校に着く。道着を着る瞬間、はだしで道場の床を踏む瞬間、氷つくような感じでしたね。練習後、足の裏を押しても感覚がないことが常でしたね。

夏は朝六時～九時まで練習をして、昼は高校に行って高校生と練習や試合をして（南高にも、夜七時からまた練習という具合でした。（おかげで持久力・スタミナはつき、持久走では陸上部の人より速かったですから…。それでも皆、やめなかったですよ。何であんなに皆続いたのか、今でも友達と「不思議だなあ」と言い合っています。

高校の時は大変自由な学校でしたから自分達で考えて自分達でやっていました。練習は中学の時と比べると楽でしたね。今思うとそれがちょっといけなかったかなとも。でも中高六年間剣道部で活動して良かったと思っています。

―剣道の魅力は何ですか

今だにわかりません。やってもやっても剣道って何だろうと思う。（そんなに練習してませんが）大変奥が深い。そこがいいんじゃないかなと思いますね。またスピードがあれば、パワーがあれば良いというものでもない。大きい人が必ず有利というものでもない。若い人が必ずしも有利でない。そこが魅力でしょうか。ですから老若男女一緒にやっても無理がまわりない競技ですね。80歳ぐらいの先生と練習しても打たれますし、私が全く打てないことが常ですから…不思議なものです。できたら私も一生続けたいと思います。そういう所も剣道の良いところかな。

―剣道を通して学んだものと得たものは

一番に忍耐力。今の生徒ではすぐやめてしまうのではないかな。（時代の違いもあるしそれ以外の様々な条件も違いがあるので簡単に比較はできませんが…）中高とやった剣道の練習と比べてそれよりきついと思うような事は今までありませんからね。もうだいたいの事は乗り越えていけると思いますよ。二番には友達かな。あの時の剣道部の仲間は他の友人と少し違いますからね。あと、すばらしい顧問の先生と出会えたこと。その先生は在職中ですが、非常に厳しい先生でした。しかしそれだけではなかった。うまく説明できないけれど本当に尊敬できる先生でした。（自分の教員生活の原点かな）その他色々ありますが、これからも学ぶことがたくさんあると思います。

―南高生の印象と要望

素直で良い生徒が多いと思いますね。もう少し元気があるといいですね。特に変に条化したり、ごまかしたりしないで真剣にやる時はやる、バカになる時はなりきる、というようにメリハリをつけて高校生活を送って欲しいと思いますね。それと目先の事ばかりにとらわれないで欲しいという事。長いスパンで物事をみていきましょう。

名調子朗々と

一年生百人一首大会

二月二十日のLHRの時間、一年生全体で百人一首大会を行った。クラス対抗で各チーム四、五人ずつ組み、体育館をいっぱい使い熱戦が繰り広げられた。結果は、

優勝　十五日R
二位　十二日R
三位　十一日R

大学生活そして就職

大学入試をやっと終えた、あるいはまったただ中の三年生、大学入試だってまだまだ先の話と実感のわかない一・二年生諸君、卒業後のことを考えたことがありますか。学生生活そして就職、特に今年の就職は「超氷河期」と言われる厳しいものでした。今春大学を卒業の三人の先輩に、学生生活と就職について聞いてみました。

それにしても、機会も与えてくれないの？

最初に、野寄友里さん（中京大学文学部英文学科）、富士ハウス株式会社への就職が決まっている。まずは、就職活動の実際を聞いてみた。

―二年生の十月頃から、大学の就職部主催のガイダンスが始まります。手元にも、就職関係の冊子が送られてくるようになりますが、男子だと二年の十二月頃から、女子だと三月になっても送られてきませんね。また、二月頃からは、企業の総合ガイダンスも開かれます。それから、資料請求の葉書を出すのですが、だいたい百社ぐらい送って、資料を送ってくれたのは、三分の一です。会社説明会は、五・六月がピークですが、就職活動にかかりっきりだった印象です。説明を聞いたり、筆記試験があったり、OB訪問があったり、面接をしたり、内定が決まるまで最低六回は足を運ぶ必要がありました。

▼女子という事で大変だったのは？

「男子には何もしなくても会社説明会の案内が送られてくるのに、女子には何回資料請求をしても送られてこない。男子から教えてもらって、出向きました。『それにしても、機会も与えてくれないの？』という感じでした。」

▼会社を選んだ基準は何ですか？

「やりたいこと重視です。自分の働いてみたい業種を中心に、ただ、そんなことばかり言っていられないんじゃないかと受けた企業もあります。」

▼地元へのUターン希望は強いのでしょうか？

「男子の場合、やはり家を継ぎ、ということがあるのか、Uターン希望の人が多かったようですね。私は最初、名古屋と浜松両方を視野に入れて就職活動をしたんですが、最終的には浜松に戻ることにしました。でも、静岡県の合同企業展の名古屋会場は、始まる何時間も前から行列ができ、列の最後になると整理券が配られ、何時に来るようにと一日帰されるということもありました。」

自分はこういうことをしたんだという具体的な話は私という人間をよく表すんだって

▼卒業を間近にして振り返ってどんな学生生活でしたか？

「よく学びよく遊ぶ生活でした。これしかないという感じで学部を選んだから、大学で学ぶことも興味が持てた。英語はコミュニケーションの手段なんだと実感しました。一年生の時に、大学のセミナーで一か月アメリカに行き、その後自分でイギリス、オーストラリアに行きました。友達の中には、『お金がない、治安が心配だ』と行かずじまいになっていた友人もいましたが、ユースホステルのような施設を利用すれば費用はそんなにかかりませんし、計画の段階で危険な土地を避ければ大丈夫です。私にとってはこの体験が大きな刺激になりました。二年生の頃はあせってばかりでしたが、三年生の時、話したいと思う気持ちが大切なんだと気づいてから、楽しみ始めた気がします。就職の面接の時に、『大学時代何をやりましたか』と絶対に聞かれるんです。最初はどうして聞くんだろうと思っていたんですが、そのうち気がついたんです。抽象的に自分はこういう人間だと言っても曖昧にしか理解されませんが、自分はこういう事をしたんだという具体的な話は私という人間をよく表すんだって。」

この仕事に就くことが当たり前で自然なことなんです

次に、金谷町の特別養護老人ホーム「本田山荘」へ就職する河村貴恵さん（中京大学社会学部）です。

▼この仕事に就くことを考え始めたのは？

「私はおばあちゃん子だったせいか、高校生の時には高齢者福祉の仕事に就きたいと決めていたんです。大変だからと母には反対された時もありましたが、大学も福祉関係の所に入って職員を目指そうという人もいます。」

「四月から働く『本田山荘』は新しくできた施設で、意欲的な空気が伝わってくる所です。タバコやお酒も禁止しないで、お年寄りの自由にまかされ、食事の時間や場所、風呂の時間も自分で選べるんです。その分職員の負担は重くなるのですが、お年寄りが『生活』するための場所であることを考えています。今はまさしく『期待と不安』でいっぱいです。」

佐藤先輩　―教育実習をした15HRにて―

特別寄稿

けんかのできる友達はかけがえのない財産

佐藤弘人

昨年の教育実習ではお世話になりました。実習後に、教員採用試験の発表があり、無事合格することができました。教員になるために大学に進学し、そして教育について考えてきた四年間でした。そして、教員になるための採用試験という壁を乗り越えられたのは、まずは、教員になりたいと思う気持ちが大変大きいものだったからです。ですから目標に向かって学ぶことに苦はなく、逆に教育に就いて学ぶことが楽しいくらいでした。しかし、地元静岡の教員しか考えず、就職活動は静岡県の採用試験だけでした。プレッシャーはかなり大きいものでした。その重圧を支えてくれたのが、南高の部活動を通して作ることのできた友人達の励ましでした。高校時代は、よく言い争いをした仲間達です。思っていることをそのまま出し合っていたので、当時はバラバラだと感じていました。ところが、相手の本音を聞くことができたため、今では気心の知れた仲間なのです。そんな友人達が、自分の事のように応援してくれたことで、心にゆとりができ頑張れました。みなさん、勉強というのは、将来の目標のためにするものです。ですから、自分の夢をしっかりと持ってください。そして、けんかのできる友達も作ってください。かけがえのない財産になります。みんなで、夢を実現するために頑張りましょう。

最後に二月十五日、事前研修のため本校を訪れた佐藤弘人さんに聞いてみました。

▼佐藤さんの学んだ富山大学理学部数学科の中では、就職状況はどうですか？

「厳しいですね。数学科では、コンピューター関係の一般企業への就職と教職が多いんですが、例年一学年、五十人ぐらいの中、五人から十人が教員になる所、今年は僕一人だけでした。一般企業も、僕らの科だと基礎研究部門に入ることが多いんですが、不景気による企業のリストラで、予算や定員が削られるのはまず、ここなんです。ということで、大学院への進学を希望する人が今まで以上に多かったんですが、これも枠は決まっていますから。」

▼卒業・就職が近づいた今、振り返っての感想は？

「これからは、個人重視の時代、目標を持って過ごすことが大切だと思います。そして、積極的に人間関係を作ろうとすること、教員になってからも、数学以外に人間関係の大切さを伝えたいですね。」

虚空蔵寺でだるま祭り

受験生から一般客まで大にぎわい

二月十一日（日）から、近くの虚空蔵寺で、三日間に渡って大祭が開かれた。この寺は浜松市民から「虚空蔵様」と呼ばれ、合格祈願と屋根の赤と青の七メートルの大だるまで知られている。

祭の期間中、南高の前庭ロータリーは、遠鉄バスの反転場所になっていた。最盛期は五分間隔位で運行されたとか。

また、虚空蔵様の前の通り掛舞線には、二百メートル位にわたり様々な露店が連なり、道路は人で埋めつくされていた。特に最終日の十三日は、雨にもかかわらず、大にぎわいで、受験からかけ離れている気がするような老人たちから小さい子どもまで多くの人がいた。一体、何のためにここまで来るのかと一人一人尋ねたくなる程だった。

さて、境内は、だるまを売る露店が今年は五・六軒出ていた。日本各地のだるま産地から来るらしい。三百円くらいの小だるまから六千円もする大だるままでが並べられ、高校入試を控えた中学生や親などが買い求めていた。近年では交通安全などを祈願する人も多いそうだ。

―大祭時の虚空蔵寺―